Press Release
報道関係者各位

株式会社Helpfeel
2026年11月4日

AI検索時代に求められるAIOライティングのノウハウを無料公開
Helpfeelが1000サイト以上のFAQ構築・運用支援で得た知見を基に

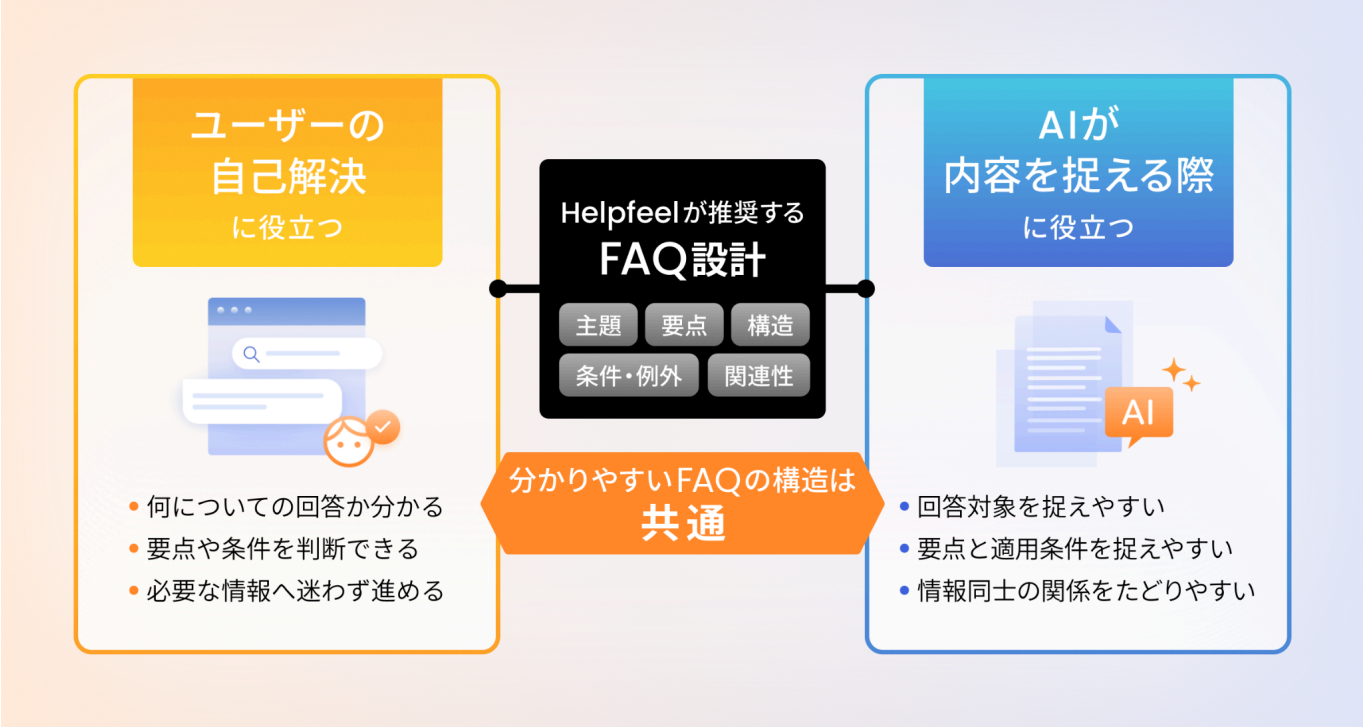
～ホワイトペーパー『AIOライティングガイド ～AIに正しく伝わりやすいコンテンツのつくり方～』で具体例とともに解説～

ナレッジの力でAIの社会実装を加速する株式会社Helpfeel（本社：京都府京都市、代表取締役 CEO：洛西 一周、以下：Helpfeel）は、2026年11月4日（水）、1000サイト以上（※1）のFAQ構築・運用支援を通じて培ったノウハウをまとめたホワイトペーパー『AIOライティングガイド ～AIに正しく伝わりやすいコンテンツのつくり方～』（以下、本資料）を無料公開しました。

AI検索の普及に伴い、企業がWeb上で公開する情報は「人に読まれる」だけでなく、AIに検索・参照され、回答の根拠として活用される機会が増えています。なかでも企業のFAQは、商品・サービスの利用方法や条件、手続きなどについて企業が発信する一次情報であり、AI検索においても重要な情報源の一つです。

本資料では、1000サイト以上に導入されているAI検索型FAQ「Helpfeel」の構築に携わってきたテクニカルライターが、これまで培ってきた「ユーザーに伝わる回答のつくり方」を、AI検索の観点から整理しました。人にもAIにも正しく情報を伝えるためのコンテンツの書き方や情報整理のポイントを、具体的な改善例とともに解説します。

※1：2026年9月時点



■ 公開の背景：AI検索の普及により、企業のFAQが回答の根拠となる時代へ

ChatGPTやGoogleのAI Overviews（AIによる概要）など、生成AIを活用した検索サービスが普及しています。従来の検索では、ユーザーが検索結果からWebサイトを選び、情報を確認することが一般的でした。一方、AI検索では、AIがWeb上の情報を参照・要約し、ユーザーの質問に対する回答を生成するケースが増えています。

こうした変化により、企業がWeb上で公開する情報は、ユーザーに直接読まれるだけでなく、AIが回答を生成する際の情報源としても重要性を増しています。特に企業の公式FAQは、商品・サービスの利用方法や適用条件、手続きなどを伝える一次情報として、その役割が広がっています。

実際に、Helpfeelが一般消費者向けFAQ137サイトを対象に実施した調査では、2026年6月の生成AI経由の流入数が前年同月比3.2倍に増加しました（※2）。この結果からも、生成AIがユーザーを企業サイトへ導く「新たな接点」になりつつあることがうかがえます。

一方で、AIが情報を参照する際には、回答の要点だけでなく、適用条件や例外、関連情報などの文脈が正しく伝わることが重要です。こうした背景から、企業には従来の「人にとって分かりやすい情報づくり」に加え、AIにも内容や文脈が正しく伝わるよう、FAQの書き方や情報の整理方法を見直すことが求められています。

※2：Helpfeel「生成AI経由のヘルプサイト流入に関する調査」（2026年8月5日公表）より

■ 1000サイト以上の構築・運用支援で培った知見を、3つのテーマで解説

Helpfeelでは、1000以上のFAQサイトの構築を通じて、ユーザーが必要な情報にたどり着き、自ら疑問を解消できる環境づくりに取り組んできました。本資料では、こうした経験から培ったAIOライティングのノウハウを、次の3つのテーマにまとめています。

1. 回答の対象・範囲・要点を明確にする

- 1ページで扱う主題を絞る
- 何に答えるページかが分かるタイトルをつける
- 本文の冒頭で答えを示す

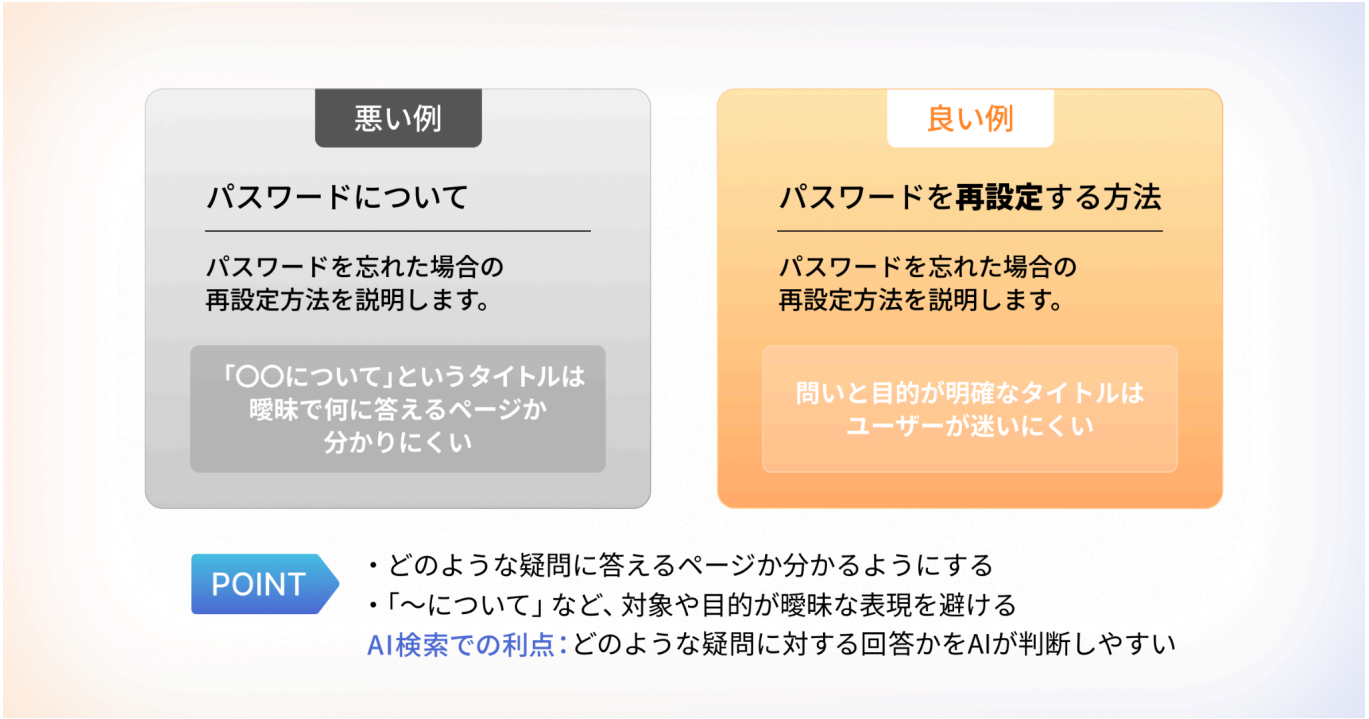
2. 回答を正しく伝えるために情報を整理する

- 条件・例外を回答の近くに置く
- 用語や呼称を統一する
- 回答に必要な情報はページ内で完結させる
- 外部資料の参照箇所を具体的に示す

3. 情報の構造とつながりを明確にする

- 情報の役割に応じて適切な形式を選ぶ
- 内容が分かる見出しやリンク文言を設定する
- 関連するFAQをつなぐ
- 重複する回答を整理・統合する

例えば、「パスワードについて」という抽象的なタイトルを「パスワードを再設定する方法」に変えることで、どのような疑問に答えるページかが明確になります。本資料では、こうした改善前後の例を通じて、日々のFAQ作成・見直しに取り入れやすい考え方を解説しています。



■ 人に伝わるFAQを、AI検索時代にも活きる情報資産へ

AI検索の普及によって、企業のFAQには、ユーザーの自己解決を支えるだけでなく、AIが回答を生成する際の情報源としての役割も期待されています。

ただし、AI検索への対応は、従来のFAQづくりと切り離されたものではありません。回答の要点を明確にし、条件や例外を適切に整理するなど、これまで人に正しく情報を伝えるために重視されてきた工夫は、AI検索時代においてもその価値は変わりません。

Helpfeelは、1000サイト以上のFAQ構築・運用支援で培った知見を広く公開することで、企業が保有するFAQを、人にもAIにも正しく伝わり、継続的に活用される情報資産へと進化させる取り組みを支援します。

本資料のダウンロードはこちらから
『AIOライティングガイド ～AIに正しく伝わりやすいコンテンツのつくり方～』

■ セミナー情報

本資料の公開に合わせて、AIOライティングの実践ポイントを解説する無料セミナーを開催します。

本セミナーでは、「AIO対策の必要性は感じているものの、何から始めればよいか分からない」「既存のWebコンテンツをAI検索に対応させたい」といった企業の担当者に向けて、AIにも正しく情報を伝えるための3つのポイントを具体例とともに紹介します。

既存コンテンツを活かしたAIOライティングの考え方や、実践に役立つ具体的な改善方法を取り上げます。



セミナー名：AIO対策、何から始める？ AIに正しく伝わりやすい AIOライティングの実践3ポイント
開催日時：2026年11月17日（火）12:15～12:45
登壇者：
・株式会社Helpfeel ソリューションデザイン部 テクニカルライター 関谷 泰正
・AI・DX推進ナビゲーター（モデレーター）汐満 有佳
お申し込み：
https://www.helpfeel.com/seminar/215?utm_medium=press-release&utm_source=prtimes.jp&utm_campaign=press_seminar&utm_content=sn20261117_aio-writing

■ 企業のAI活用を加速する「AIナレッジデータプラットフォーム」

AIの回答精度を左右するのは、参照する「ナレッジデータ」の質です。企業内には、マニュアルやFAQなどの明文化された知識だけでなく、未活用の応対ログや、ベテランのノウハウといった暗黙知など、多くの情報資産が眠っています。

Helpfeelは、こうした社内の知識をAIが活用できる形に整理・構造化し、AI-Readyなナレッジ基盤を構築します。この基盤を中核に、AIエージェントやヘルプサイトを通じた顧客対応、オペレーター支援、VoC分析まで、幅広いソリューションを「AIナレッジデータプラットフォーム」として展開しています。さらに、経営・組織・人材のAI-Ready化を支援するAIコンサルティングも提供し、企業の意思決定や顧客体験を高度化し、持続的な競争優位の実現に貢献します。

現在、金融・インフラ・製造・小売をはじめとする国内エンタープライズ企業を中心に、1000サイト以上に導入されています。

「**Helpfeel**」サービスサイト：https://www.helpfeel.com



■ 株式会社Helpfeel 概要

Helpfeel
このAIが、解決する

創業：2007年12月21日（2020年12月4日に日本法人を設立）
代表者：代表取締役 CEO 洛西 一周
京都オフィス：〒602-0023 京都府京都市上京区御所八幡町110−16 かわもとビル5階
東京オフィス：〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-14-1 住友不動産八重洲通ビル4階
URL：https://corp.helpfeel.com/

Helpfeelは、企業内に蓄積された膨大な知識資産を、AIが即座に活用できる“AI-Ready”なナレッジ基盤へと最適化するナレッジテクノロジー企業です。AIの精度やパフォーマンスを左右する「コンテキストレイヤー」を担い、ナレッジデータの創造・蓄積・分析・活用を一気通貫で支援することで、知識資産の価値を継続的に高め、AIの精度向上と自律的な活用を支えます。以下3つのプロダクトを中核に、企業の“AI-Ready化”を支援する包括的なソリューションを展開しています。

- 企業のAIを強くするAIナレッジデータプラットフォーム「Helpfeel（ヘルプフィール）」
- AIを育てるナレッジベース「Helpfeel Cosense（コセンス）」
- 画像や動画をあなたの代わりに記憶するAI「Gyazo（ギャゾー）」

【本発表に関する報道関係者様からのお問い合わせ先】
株式会社Helpfeel　広報　担当者：河端、成田、坂本
MAIL ： pr@helpfeel.com